



総合学科の創造性 地域の力に
に し め
新志芽通信

No.015

令和7年9月26日
秋田県立西目高等学校

卒業生講話 【9月17日(水)】

この3月に卒業した先輩たち8名を迎え、1年生に対して卒業生講話が行われました。卒業生のみなさんは、自分の高校時代を振り返りながら、どうやって「今」に繋がってきたかを、それぞれの言葉で話してくれました。生徒たちは先輩たちの言葉を一生懸命にメモを取りながら聴いていました。1年生のみなさんは、話してくれていた先輩の様子を思い出しながら、2・3年生は今後の自分の学校生活をより良くすることをイメージしながら読んでみてください。参考になるところはぜひ真似をしてみましょう。



秋田県立大学システム科学技術学部経営システム工学科

小野寺 権さん

ビジネス会計系列・サッカー部

はじめに、この大学に決めた理由と受験対策についてです。私は、ビジネス会計系列で学んだ分野をさらに詳しく学びたいと考え、この大学に決めました。

私は総合型選抜で受験しました。試験内容は、数学と物理の口頭試問、高校で行った特色ある活動の発表、そして面接でした。口頭試問とは、問題を解きながら説明

するというものです。数学は高校で習った範囲から出題されるため、数学Ⅲや数学Cを習っていなくても受験可能で、それがメリットだと思います。また、先輩たちの

過去の記録なども残っているので、気になる人は見て欲しいです。私が高校で行った特色ある活動は、2年生の頃に行った「わかものみせ」での活動で、それをパワーポイントにまとめて発表しました。この発表内容については、村上先生、花恵先生、達博先生などにアドバイスをしてもらいました。自分では足りないところを先生方が補ってくれるので、みなさんも進路活動で分からない事や困ったことがあったら頼ることを大事にしてほしいです。面接の対策は、受験の2週間前ぐらいから集中して行いましたが、もっと前から取り組んだ方が余裕が生まれると思います。面接の練習では同じ先生ばかりでなく、いろいろな先生とするのがいいと思います。先生によって質問の内容も違うので、知らない先生にも自分からお願いしてみてください。

現在は大学で今後身に付けていく専門的な分野の基礎となることを勉強しています。学生生活では、講義を受けるとき以外の時間は、趣味を作ったり、遊んだり、サークル活動をしたりなど自由な時間が多いです。この点は大学生のいいところだと思います。入学後に感じた反省点は、自分は11月頃に合格してからあまり勉強をしなかったことにです。そのせいで、入学後の勉強に支障が出てしまいました。大事なのは合格してから期間に何をするかだと思うので、みなさんも気を付けてください。

私が就職試験に合格するために取り組んできたことや働くにあたって大事なことや必要なことを紹介します。

まず、試験の為に取り組んできたことを紹介します。一つ目は、定期考査にしっかりと取り組む事です。私は、進路が決まっていなかったため、**進学でも就職でも困らないよう、一つ一つの定期考査を大事に取り組みました。**就職では、3年生の第1回目の定期考査までの成績が企業に送られます。そのため、評定はそこまでにできるだけ上げておくべきだと思います。二つ目は面接練習です。**面接は、いろいろな先生とたくさん練習することをお勧めします。**たくさん練習することが自信に繋がります。そして、先生からのアドバイスを受けた後、内容を直していくようにしましょう。本番では想定していなかった質問が来ることもあるので、そのときに対応できるようにすることが大事です。また、過去の先輩方の受験報告書なども参考にすると良いです。

続いて、働くにあたって必要なことや大事なことを紹介します。一つ目は「挨拶」です。挨拶はコミュニケーションをとる第一歩だと私は考えます。社会に出れば、名前も顔も知らない人たちと働くことになります。自分が良い環境で仕事をするためにも、同じ職場の人たちとは仲良くしましょう。そのための第一歩として必ず挨拶するようにしましょう。また、私生活でも普段から挨拶することで友だちや先生方と良い信頼関係をもつことができると思います。二つ目は、「**考えて行動すること**」です。スーパーでは開店前に売り場を埋めることが重要です。素早く作業を終わらせるためには身体を速く動かすことも必要ですが、頭を使うことも重要です。どうすれば効率よくできるか、自分のやりやすい作業方法を見つける事で、より手早く作業を進めることができます。勉強でも自分が一番分かりやすい方法を見つけて取り組んでいけば、成績も上がっていくと思います。

最後に、高校3年間は思っているよりも一瞬で終わってしまいます。後悔の無い充実した高校生活を送ってください。



株式会社ナイス

佐藤 日々樹さん

農業科学系列・テニス部

在学中は教養文化系列に所属していました。現在は、地元にかほ市にある森建設工業株式会社で事務職員として働いています。今日は私が進路を決める上で悩んだことや就職してから感じていることをお話ししたいと思います。

はじめに、私が今の会社を選ぶまでの経緯をお話ししたいと思います。私は中学生の頃は美容系の仕事に興味があり、高校2年生の前半まで県外美容専門学校に進学しようと考えていました。しかし、2年生の後半になって本当に美容学校に進学したとしても卒業後に長く働くことができるのか本当にそれでいいのかと悩みました。ちょうどその頃に、学校で先輩講話を聞く機会があり、「県内に残って働くのも選択肢の一つだ」と思うようになり、少しずつ就職も現実的に考えるようになりました。さらに3年生になると周りの友だちは進学先を決めて勉強していたり、就職希望の人は試験対策を進めていたりして、私は進学か就職かもはっきり決められていなかったもので、正直とても焦っていました。そのときに、担任の先生から「進路相談室の先生に相談してみたら？」と言われ、それをきっかけに進路相談室に通い始めました。実際は、それでもなかなか「自分に合った仕事って何だろう、やっぱり進学しようかな」という気持ちが出てきて決断しきれず、何度も進路相談の先生と話をしました。そんな時に、土木系列の先生に「森建設工業が事務職を募集しているみたいだよ」と教えてもらったことで、私は森建設工業に興味を持ち、調べることにしました。調べてみると自分の地元にある会社で、地元に貢献できる仕事って素敵だなと思い、ここで働くこと決断しました。

試験内容は他の企業さんとは違い筆記はなく、面接だけだったのでとても不安でした。私は人前で話すことが得意ではないため、いろんな先生にお願いして面接練習を繰り返しました。ここでみなさんにお勧めしたいことは、**仲の良い先生だけではなく、普段あまり関わりのない先生に面接練習をお願いしてみる**ことです。その方が本番の面接に近い雰囲気練習ができ、自分のことを知らないからこそいろんな視点から質問してくれます。この練習が私自身とても役に立ったと感じたので皆さんにお勧めしたいです。

森建設の事務の仕事内容は、社員の出勤管理や書類作成、電話や来客の対応など事務作業全般です。建設業と聞くと「現場での作業」「男性が多い職場」というイメージを持つ人もいます。しかし、私のように事務職員として働く女性や、現場で活躍する女性も増えてきています。私は直接建物や道路をつくるわけではありませんが、実際に仕事をしていると工事を行うときに必要な注文書、契約書などの書類を作成したり、市役所に届け出を提出しに行ったり、毎日の小さな業務が工事を行う中で大切なことを実感し、「自分もこの仕事に関わっている」と思えることにやりがいを感じながら仕事を行っています。

そして、社会人になって一番強く感じたのは、「**小さなことの積み重ねが大切だ**」ということです。例えば、「挨拶をすること」「時間を守ること」「報告・連絡・相談を行うこと」です。学生の頃は「先生はどうしてこんなに挨拶や時間についてうるさく言うのだろう」と正直思ってしまう時もありました。でも、社会人になってみてそれが信頼に繋がるのだと実感しました。もちろん、社会人になってうまくいくことばかりではなく、失敗もたくさんしました。電話を取ったときに社名や名前をうまく聞き取れなかったり、書類のミスで先輩に迷惑をかけてしまったり、それでも同じミスを繰り返さないようアドバイスをもらいながら頑張っています。

最後にみなさんに伝えたいことを3つお話しします。1つ目は、**3年生になってから「もっと早く考えておけばよかった」と後**

悔しいように、興味を持った**仕事があれば自分で調べてみたり、勉強を頑張っ**て少しでも評定を良くしたり、積極的に資格を取得したりと、**今からできることを早いうちから準備しておく**ことです。あとで自分の将来に必ずプラスになると思います。いざ3年生になって進路を決めるときにもスムーズに選ぶことができるので、余裕を持って準備しておくことをおすすめします。それでも私のように最後まで進学か就職かでどうしよう悩んだとしても、焦って進路を決めなくても大丈夫です。**迷**うことは、**それだけ真剣に考えている証拠**です。たくさん悩んで最後まで自分が納得できる選択をしてください。そして、「仲の良い友だちがここに行くからここに行こう」ではなく、「**ここなら頑張れる**」と思う選択をすることが大切です。

2つ目は、**人と話すことを大切に**することです。進路に悩んだとき、困ったとき、友だちや先生、家族に相談してみてください。きっと皆さんの力になってくれるはずです。私も友だちや先生に相談したことで自分の方向性を見つける事ができました。そして、話すことは卒業後に職場の人や進学先での新しい友達と関わっていく中でも必ず大きな力になってくれます。

3つ目は、**今の高校生活をおもいきり楽しんで大切に**することです。これはきっと、どの先輩も思っているはずです。卒業してしまうと本当に今までの生活とは一変し、友達とも時間が合わなくなり、会う機会も少なくなってしまう。だから高校生活は友達といっぱい思い出を作ってください。でも、高校生活は絶対に楽しいことばかりではないし、つらいこともたくさんあると思います。それでもそれを乗り越えられたら、きっと卒業後はあのとき頑張った良かったと思える時が来ます。授業や部活動、友達との関わりの中で学んだことは、社会人になって必ず役に立ちます。

西目高校は総合学科で、系列によって専門的な知識を学ぶことができる、とても恵まれた環境が整っている学校だと思います。だからこそ、西目高校で学んだことをたくさん吸収して、大人になったときに「この高校を選んで良かった」と思えるよう、悔いのない学校生活を送って欲しいです。社会に出るとたいへんな事も多いですが、卒業後は自分で決めた道だからこそ頑張ってみようと思えることがたくさんあると思います。だからみなさんも、たくさん悩んで自分に合った進路を見つけてください。

～1年生の感想から～

今日の講話を聞いて、今のうちから進路先を真剣に考え、それに合った勉強への取り組み、資格の勉強を頑張りたいと思った。面接練習は、普段あまり関わりのない先生と行うのが良いと分かった。日常生活からしっかりと見直して将来に繋がるようにしたいと思った。

友だちとの関わりも大切だと分かったので、高校で出会った友だちをこれからも大切にしていきたい。



森建設工業株式会社
齋藤琉那さん

教養文化系列・生徒会

私は、現在にかほ市役所で総務部税務課市民サービス班で働いています。在学中はビジネス会計系列に所属し、簿記などの資格取得のため、日々勉強に取り組んでいました。今日は、私の公務員を目指すまでの過程と受験対策、今どんな仕事をしていて、社会人になってどう感じているかなどお話しします。



にかほ市役所
田中結衣さん
ビジネス会計系列・テニス部

まず、公務員を目指したきっかけですが、私はもともと公務員志望ではなく、県外就職を希望していました。就きたい職業があったわけではなく、県外で一人暮らしをしてみたいという憧れがあったからです。ですが、自分の希望に沿った求人がなかなか見つかりませんでした。悩んでいたときに、部活動の顧問の先生に相談したところ、人と話すことが好きで事務職を希望していた私に「公務員がっているのではないかと勧めてくださったことで、公務員を目指すことに決めました。

私は、高校3年の5月から、公務員試験対策を本格的に始めました。周囲と比べてスタートが遅めだったので、まずは模試を受けて自分の実力の現状を把握することにしました。模試の結果、45点中9点と厳しいものでしたが、「まだ伸びしろがある」と考えて、「絶対に合格する」という強い気持ちを持つことにしました。模試で、どの科目が得意か、苦手かがはっきり分かったことが大きな収穫でした。そのため、まずは得点できていた科目を伸ばすことにしました。得意科目を伸ばすことで自信をつけ、全体の底上げにつなげていく策はとても私にあっていたため、最終的にD判定からB判定まで上げることができました。公務員試験の範囲は、高校までに学んだ科目すべてが対象となるため非常に広く、「何から手をつけるか」がわからず不安になる人も多いと思います。しかし、憲法や政治・統治などの分野は、出題形式や内容が類似していることが多く、しっかり勉強しておけば比較的点をとりやすい部分です。これらを早めに押さえておくことが、合格への近道になるはずです。

筆記試験だけでなく、面接も同時に準備しておいた方が良いです。なぜなら、面接では「人柄」「態度」「意欲」など、筆記試験では見えにくい部分がしっかりみられるからです。まず、**自己分析ノート**を早めに作っておいてください。高校3年生になってから慌てて作るより、今のうちから「**自分の強み**」「**自分の弱み**」を整理しておく、本番でも自信をもって話すことができます。過去の経験(部活動やアルバイト、ボランティアなど)を振り返って、「いつ／何を／どう考え／どう行動したか／そこから何を学んだか」を書き出しておくといいです。次に、受験先(自治体や部署など)の情報も前もって調べておいてください。「この自治体にはこういう特徴がある」「この部署ではこんな仕事をしている」などを知っておくと、面接で「なぜここを志望するのか」が説得力のある答えになります。調べた内容を自分の思いや経験と結びつけて話せるように準備しましょう。それから、面接の練習をたくさんしてください。先生や先輩にお願いして、本番に近い緊張感のある場で練習すると効果的です。自分の話し方、声の大きさ、表情、姿勢なども意識して見てもらってください。本番ではそういう細かいところも評価に繋がります。これらを準備しておけば、面接本番でも落ち着いて、そして自分らしく話すことができます。

次に今の業務内容についてお話しします。現在にかほ市役所の税務課市民サービス班で、主に窓口での業務を担当しています。具体的には、住民票や戸籍などの証明書の発行や窓口対応、住民からの問い合わせへの対応、婚姻届や志望届の受理など様々な業務を行っています。**直接住民の方と接する機会も多く、「ありがとう」と感謝の言葉をいただけたときには、自分の仕事に誰かの役に立っていることを実感でき、大きなやりがいを感じます。**一方で、窓口対応には正確さとすぐ対応する力が求められ、判断を誤ると影響が大きくなってしまうため、常に緊張感もあります。そうした責任の重さも含めて、やりがいのある仕事だと感じています。

実際に働き始めて感じたのは、「**チームで働く仕事の大切さ**」です。ミスが許されない仕事も多く、職場では複数の人と連携して動くことが基本です。ひとつの業務でも、複数の部署や担当者や情報を共有しながら進めていく必要があり、**確認や報告・連絡・相談の大切さを日々実感しています。**また、公務員の仕事という「ルールに従って淡々と進める」イメージがあるかも知れませんが、実際は状況に応じて臨機応変な対応が求められることも多いです。制度にないケースや、前例のない対応が必要な場合などは、マニュアル通りにはいかないので、上司と相談しながら最善の判断をする必要があります。そうした柔軟さも、以外と重要だと働いてから気づきました。そしてもう一つ感じているのは、住民の方の「声」に直接触れる仕事であるということです。時には厳しい言葉をいただくこともありますが、それだけ行政に期待されている証拠でもあると受け止めています。一つ一つの対応に誠意を持って向き合うことで、少しでも信頼していただけるよう努力しています。公務員の仕事は、決して派手ではありませんが、日々の積み重ねが人の暮らしを支えていると実感できる職業です。自分の仕事に社会の中でどんな役割を果たしているのかを意識しながら働けるのは、大きなやりがいにつながります。

今みなさんが高校1年生だからこそ、今から実際にやってほしいことは、**卒業後の進路について少しでも考える事**です。まだ「これだ」と決められていない人が多いと思います。でも、「少しでも気になる学校」や「興味のある職業」があれば、まず調べてみてください。大学や専門学校のパンフレットを見たり、ネットで調べたりです。それから、できればオープンキャンパスに参加してみたいです。大学を実際にみたり、授業を体験したり、在学生の話を聞いたりすることで、「自分がどんな環境で勉強したいか」が見えてきます。これは、あとあと進路を決めるときにとっても役立ちます。**ほんの少しでも行動を始めることが高校3年生になったときに「やっておいてよかった」と絶対思えるような土台になります。**あとは、高校生活の3年間はあっという間なので、今仲良くしている友だちを大切にしたいです。卒業してからも付き合いが続く友だちになることも多いので、勉強も大事ですが、遊びや思いでもたくさん作って、いい高校生活にしてください。

～1年生の感想から～

多くの先輩が言っていた「今のうちから」という言葉がすごく印象に残りました。何人かの先輩が「後悔した」と言うのを聞いて、今が大事なのだと考えさせられました。今回の講話から就職・進学について詳しく知ることができました。今後の進路活動にうまく活かして行きたいと思いました。



TDK株式会社

松田龍聖さん

教養文化系列・野球部

私は3年間教養文化系列に所属していました。進路については、高校入学当初から地元の企業であり、グローバルに活動していることに魅力を感じ、TDKを志望していました。

はじめに、私が行っていた受験対策を紹介します。一つ目は**会社について知ること**です。私は入学当初からTDKを志望していたので、早めに調べ始めることができました。企業理念や業務内容を知ること、より詳しく目標を定めることができ、面接や履歴書にも生かしました。また、自分に合った選択をするために様々な業種や会社に目を通すことも大事にしていました。

二つ目は**評定を意識すること**です。私は1年生の頃から、評定平均が4.5を超えることを目標にしていました。評定は、1年生から意識していないと3年生になってから過去の成績が足を引っ張ることもあります。評定は高い方が進路の幅も広がるので、今進路が決まっていなくても意識して取り組んだ方がいいと思います。

三つ目は**試験対策**です。TDKの試験は筆記試験と面接試験があります。筆記試験は国語・数学・英語の三科目あり、速く解かなければならない問題が多いため、普段の勉強でも速く正確に解くことを意識していました。クレペリン検査などもあるため、筆記試験対策は一通りやってみることをお勧めします。面接練習は自信が持てるようになるまで行い、昼休みなどの空いた時間を利用しました。本番は10人ほどの面接官の他にオーディエンスもいるので、自信を持って回答できるように頑張ってください。また、**試験で少しでも有利になれるよう、資格取得に挑戦することも大事だと思います。その資格に対しての知識が増えるだけでなく、本番の自信にも繋がります。**

次に就職してから感じたことをお話しします。私は主に納期の管理や物品の発注などを行っています。その中で、社会人として必要だと感じたことは**コミュニケーション力**です。私の部署では他部署の方や、取引先との関わりが多くあります。そこで相手の伝えたいことを理解する力や自分の言葉でうまく相手に伝える力が必要だと思います。また、会社ではメールでのやりとりがほとんどなので、**正しい文法や敬語なども身に付けた方が良いです**。そして、私はパソコンの授業も選択していましたが、会社でエクセルを使用する際に知識不足でとても大変でした。職場の方々は優しく教えてくれますが、今のうちにエクセルなどの勉強はした方がいいと思います。

最後に、高校生活で悔いが残らないようにまずは学校生活や部活動に全力で取り組みましょう。今は進路が決まっていなくてもいいと思いますが、焦らずに自分自身が納得できる進路を見つけられるように頑張ってください。

～1年生の感想から～

1年生のときからテストにしっかり取り組む事が大事だと学ぶ事ができました。進学・就職のときに困らないように、学校・企業について調べておくことが大切だということが分かりました。

今日は私の進路決定に至るまでの経緯やアドバイスをお話します。

私は、将来、救急の現場で活躍できる看護師を目指していました。大学を考える際に、親とたくさん相談し、国公立大学に進学することを考えていました。高校三年生から本格的に勉強をはじめ、徐々に自分に力がついてくのが嬉しくなったこともありましたが、結果として受験には失敗し、第一志望には合格できませんでした。正直とても悔しかったです。けれども今は第二志望であった日本赤十字東北看護大学で学んでいます。この大学では赤十字救急法や災害救護訓練など当初目指していた大学では経験することのできない科目が学べます。また、隣接されている、救急に力を入れている秋田赤十字病院での実習もでき、自分の目指す看護師像にものすごく近づくことのできる大学です。受験には失敗しましたが、自分のこれからの人生を考えるとこの大学で正解だったのかなと思います。

この経験から皆さんに伝えたいことは二つあります。

一つ目は、**受験は一年生のうちからの積み重ねが本当に重要だ**ということです。特に英語や数学の積み重ねが大切だと感じました。私は、一年生の時から多くの先生に「勉強しろ」とたくさん言われましたが、「まだいいだろう」という考えで過ごしてきました。そのことを、三年生になり、模試や受験勉強を本気でやり始めるタイミングでとても後悔しました。一年生の時は受験に対しての熱量もそれほどなく、勉強するのは大変だと思います。ですが、いつも吹き替えで見ていた外国映画やアニメを字幕で見てみるなど、些細なことでもいいので始めてみて、徐々に隙間時間にその日の復習をしてみるなど、勉強の難易度を上げてやってみてください。三年生になり受験勉強をするときに大きな力になると思います。

二つ目は**進路を決める時は、必ず親、先生を頼って相談してください**。自分一人で進路を実現させることは絶対にできません。ましてや私のようにいろんな大学を受験し、最終的には私立の大学に通うことになるかとたくさんのお金が必要になります。また、試験対策や面接練習などたくさんの先生方に協力してもらうことになります。このように親や先生方の支えがあってこそその受験です。ためらわずたくさん相談し、たくさん協力してもらって一步一步進路実現に向けて進んでください。



日本赤十字東北看護大学

笹森陽仁さん

文理系列・サッカー部

～1年生の感想から～

何事も一人で解決するのではなく、周りにいる先生や家族、友だちを頼ることが大切だということが分かりました。そして、普段からの小さなこと（挨拶など）の積み重ねが将来、社会に出たの信頼に繋がるということ、今からの時間を大切にしてい進路の実現に取り組むと良いことが分かりました。どの先輩方も言っていた「3年生からでは遅い」といった内容がとても印象的でした。